

# 協会だより

(社)秋田市建設業協会

## 目 次

- 1 . 定例会議  
役員会・運営委員会・企画委員会
- 2 . 行事報告  
会員研修・全中建通常総会
- 3 . 平成17年度2級建築施工監理技術検定試験 - ご案内 -
- 4 . 年間17名が作業中の熱中症で死亡 ~熱中症の季節到来~

## 1 . 定例会議

役員会 6月27日(月)

《報告》1 . 運営委員会・工務委員会における委員長報告

運営、企画の両委員長から委員会における協議内容について報告がありました。

2 . 6月20日付秋田県知事認可(河辺・雄和地区会員の入会の件)

河辺・雄和地区19社に6月20日付けで協会長名の入会承認通知したことを報告

《議題》1 . 入札制度に係る「特別委員会」の設置について

秋田市の入札制度についての検討・研究や市当局への要望事項等について協議する「特別委員会」の設置について承認される。

2 . 講演会及び生ビール会の開催について

8月1日(月)開催し講演会の講師は大森山動物園の小松守園長に依頼する。

企画委員会 6月6日(月)

《議題》1 . 今後の行事予定について

講演会及び生ビール会、委員会研修について協議いたしました。

運営委員会 6月15日(水)

《議題》1 . 委員会研修について

9月頃「入札・契約制度について」、他県の協会に行き研修する。

2 . 特別委員会について

特別委員会の設置について協議いたしました。

## 2 . 行事報告

全中建通常総会に出席

平成17年度全中建通常総会が6月7日に京都ホテルオークラで開かれ、工藤会長・山岡副会長・加藤会計理事及び事務局が出席しました。

新しく会長になられた、岡本会長の挨拶の後、議事に入り平成16年度事業報告並

びに収支決算報告、次に平成 17 年度事業計画(案)及び収支予算(案)が審議され、全会一致で可決承認されました。

なお当会の工藤会長が、理事に就任となりました。

#### 会員研修視察

6月16日(木)・17日(金)の両日にかけて会員28名が、愛知県名古屋市で開催されてます、愛知万博「愛・地球博」を視察し、夜には会員の親睦を深めるために懇親会が開かれ、翌日は2月にオープンした中部国際空港を視察しました。

### 3. 平成 17 年度 2 級建築施工管理技術検定試験 - ご案内 -

#### 受験申込受付期間

インターネット申込受付 平成 17 年 7 月 1 日(金) ~ 7 月 15 日(金)  
書面申込受付 平成 17 年 7 月 15 日(金) ~ 7 月 29 日(金)

試験日 平成 17 年 11 月 13 日(日)(学科・実地試験)

試験地 仙台、東京 他

受験資格 学歴又は資格により一定の実務経験年数を有するもの

申込書類提出先及び問い合わせ先 (財)建設業振興基金試験研修本部  
105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12  
虎ノ門4丁目MTビル2号館3階  
TEL 03-5473-1581

受験用紙販売先 (社)東北建設協会 秋田支所  
010-0951 秋田市山王4-4-31  
TEL 823-3148

## 4 . 年間 17 名が作業中の熱中症で死亡

～ 熱中症の季節到来～

秋田労働基準監督署

秋田でも、最高気温が 25 度を超える日が多くなり、今後最高気温が 30 度を超える真夏日が増えるにつれ、熱中症の対策を考えなければならないシーズンが近づいてきました。

このほど、昨年 1 年間に作業中の熱中症で死亡した労働者が全国で 17 名であったことが、厚生労働省のまとめで分かりました。

秋田県内においても残念ながら昨年は 1 名の死亡災害が発生しております。

特に昨年は猛暑で 7 月 28 日から 8 月 4 日にかけて毎日のように熱中症の休業災害が発生していました。また熱中症は気温 30 度未満でも発生することもあり注意が必要です。

建設業などの屋外型の現場における熱中症対策のポイントは、

作業環境管理（日よけ・散水・休憩所・飲料など）

作業管理（休憩・服装・保護具など）

健康管理（睡眠・栄養・教育など）

で、それぞれの対策を効果的に行うことが重要です。

昨年死亡災害につながった原因として、

熱中症の認識がないために症状が悪化して初めて病院へ搬送され、手遅れになったケース

高温環境下における作業の危険性について認識がないまま、直射日光下等での連続作業が行われてしまったケース

水やお茶等が準備され水分補給を行っていても、塩分の補給がないために被災したケース

被災当日以前に体調を崩していたにもかかわらず無理に作業を行って被災したケースなどが少なからず認められております。

従って、死亡災害の防止のためには、何よりも熱中症に対する認識を深めて頂くとともに、熱中症と疑われる症状が認められた場合にはたとえ症状が軽いと思われる場合であっても直ちに医師に受診させることが重要です。

また、水分補給の際には若干の糖分と併せ塩分を含んだ飲料等の補給を行うとともに、作業当日の各人の健康状態を十分に把握した上で作業を行わせることも重要であると考えられます。

熱中症とならないためにも、今のうちから十分な知識を持ちまた適切な予防対策が講じられるよう十分な備えが必要です。

# 熱中症予防のポイント

これからの季節、職場の気温・湿度はぐんぐん上がっていきます。暑い中での作業は“熱中症”の危険があります。

熱中症を正しく理解し、きちんと対策をとって、暑い時期を安全・健康に過ごしましょう。

また、屋外での一人作業では、発見が遅れ、手遅れになることがあります。自らを守るためにも作業を行う人それぞれが熱中症に関する十分な知識を持つことが必要です。

## 熱中症とは

熱中症とは、高温の環境下で体温調整や循環機能などの働きに障害が起こる病気です。

私たちの体は、汗をかくことで体温を一定に保っていますが、暑いときに汗で水分や塩分を過度に失うと熱中症となります。熱中症になると、ひどいときには意識を失ったり死亡するケースもあります。毎年夏季には、熱中症により死亡や意識障害を伴う重篤な労働災害が発生しており、平成16年には全国で17名が死亡しています。秋田県においては残念ながら死亡災害が1件発生しており、本年も熱中症の発生が懸念されるところです。

## 熱中症の症状

次のような症状を認めたら、すぐに管理・監督者に知らせましょう。

- 呼吸が速くなる
- 吐き気がする
- 脈が速く、弱くなる
- 頭痛がする
- 唇がしびれる
- めまいがする
- 反応が鈍る
- 言動がおかしい
- 筋肉に痛みとけいれんがある
- 疲労感、虚脱感
- 耳なりがする
- 嘔吐や下痢がある

## 病状の例





## 予防方法

- 1 事前の準備を十分に
  - ① 作業の前には作業者の体調を必ずチェック。
  - ② その日の天気予報に注意し、暑さ（気温、湿度、風速など）を検討する。
  - ③ 適切な作業計画を策定し、作業管理を行い、十分な休憩時間をとらせる。
- 2 水分+塩分を取ろう！

汗をかいてからではなく、作業前から定期的に補給しましょう。水分だけでは、熱けいれんを起こすことがありますので、少量の塩分をとります。また、若干の糖分（3～6%）も含まれていると持久力が向上します。スポーツドリンク等で10～15℃に冷えたものがよいでしょう。
- 3 涼しい服装をしよう！

直射日光の下などでは、綿などの通気性や吸湿性の良い生地で、明るい色調の、首や手足が開放的なものがよいでしょう。体の表面からの放熱を促進します。直射日光のあたる屋外では、つばの広い帽子も役立ちます。  
安全帽等を着用して作業する場合には、特に多めに休憩時間をとりましょう。
- 4 日常の健康管理を大切に  
睡眠不足のとき、疲れているときなどは熱中症になりやすく、特に二日酔いや朝食抜きでの作業は厳禁です。夜更かしせず早起きして、涼しい時間に運動をおこなって、夏バテしない体をつくりましょう。

## 熱中症の手当の方法・救急処置

熱中症は、早期の措置が大切です。少しでも異状がみられたら直ちに涼しいところで安静にさせ、水やスポーツドリンク等を与えるなどの手当を行ってください。  
回復しない場合及び症状が重い場合などは、医師の手当を受けてください。  
また、反応が鈍い、意識がないなどの場合は、手当を行うとともに、ためらわずに救急車を呼びましょう。手当の遅れが生命に関わることがあります。

